

17/28
志強

重大事故の想定訓練

川内原発 30キロ圏住民参加ないまま

8月にも再稼働を狙う九州電力川内原発1号機（鹿児島県薩摩川内市）で27日、重大事故に対処するための総合訓練が始まりました。

今回の訓練は、地震や津波の影響で原子炉に冷却水を送る配管が破断し、全ての電源が喪失する事態を想定し

たもの。30日までの4日間にわたって行われます。

1日目の27日は、中央制御室で非常用電源や水素爆発を防止する

装置の作動状況を確認。原子力規制委員会の保安検査の一環として実施され、15人の検査官が立ち会いました。

視察に訪れた同委員会の更田（ふけた）豊志委員長代理は記者団に対し、「いくつか指摘すべき点はあったが、全体的にはうまくいっている」との認識を示しました。

更田氏は「さらに高度な訓練など、さまざまな形での訓練が必要になる」と述べる一方、地元の市民団体などが要望している、30キロ圏内の住民が参加した避難訓練は行わないまま、再稼働を容認する姿勢は変えていません。

今回の訓練にも、30キロ圏内の住民は参加していません。